

**食品に関するリスクコミュニケーション～食品添加物及び輸入食品の安全確保について～**  
 (平成19年1月22日開催：神戸市)  
**アンケート集計結果**

参加人数 114名  
 アンケート回答者数 92名 回答率 80.7%

Q1 ご自身について、ご回答ください。		
1 性別		
1 男性		56 (60.9%)
2 女性		36 (39.1%)
2 年齢		
1 ~19歳		0 (0.0%)
2 20歳代		10 (10.9%)
3 30歳代		17 (18.5%)
4 40歳代		29 (31.5%)
5 50歳代		23 (25.0%)
6 60歳代		7 (7.6%)
7 70歳～		5 (5.4%)
3 ご所属		
1 消費者(団体を含む)		16 (17.4%)
2 生産者		0 (0.0%)
3 製造・加工業		28 (30.4%)
4 流通・販売業		15 (16.3%)
5 報道関係者		0 (0.0%)
6 行政関係(独法含む)		24 (26.1%)
9 その他		9 (9.8%)
4 本日参加された目的		
1 食品の安全性の問題に関心があるため		58 (63.0%)
2① 食品添加物の安全対策について知るため		61 (66.3%)
2② 輸入食品の安全対策について知るため		51 (55.4%)
2③ 米国産牛肉問題に関する最近の対応状況について知るため		25 (27.2%)
3 パネリストや参加者の意見を聴くため		32 (34.8%)
4 意見・要望を述べるため		1 (1.1%)
5 その他		0 (0.0%)

Q2 演者からの説明についてお伺いします。説明内容について、十分に理解することができましたか		
1 できた		18 (19.6%)
2 おおむねできた		63 (68.5%)
3 あまりできなかった		10 (10.9%)
4 できなかった		0 (0.0%)
SQ1 十分に理解することができなかった内容は次のどれですか。(当てはまるものを全て)		
1 食品添加物について		10
2 平成19年度輸入食品監視指導計画案		4
3 米国産牛肉への対応状況		5
SQ2 十分に理解することができなかった理由は次のどれですか。(当てはまるものを全て)		
1 用語など内容が理解しにくい。		1
2 説明資料が見にくい。		2
3 説明が聞き取りにくい。		1
4 自分が理解していることとは異なる説明である。		6
5 その他		0

Q3 本日のリスクコミュニケーションについてお尋ねします。意見交換は分かりやすく、議論の内容等について理解できましたか?		
1 できた		13 (14.1%)
2 おおむねできた		60 (65.2%)
3 あまりできなかった		11 (12.0%)
4 できなかった		0 (0.0%)
SQ1 十分に理解することができなかったテーマは次のどれですか(当てはまるもの全て)		
1 食品添加物について		8
2 輸入食品の安全対策(輸入食品監視指導計画案)		4
3 BSE対策(米国産牛肉への対応状況)		2
SQ2 十分に理解することができなかった理由は何ですか(当てはまるもの全て)		
1 用語など発言の内容が理解しにくい。		4
2 発言が聞き取りにくい。		1
3 その他		0

Q4 本日のリスクコミュニケーションについてお尋ねします。パネルディスカッション・意見交換において、自分とは異なる見解の発言はありましたか?		
1 あった		39 (42.4%)
2 なかった		39 (42.4%)
SQ1 異なる見解の発言の趣旨は理解することができましたか。		
1 できた		5
2 おおむねできた		18
3 あまりできなかった		11
4 できなかった		6
SQ2 発言の趣旨が十分に理解することができなかった理由は何ですか。		
1 そのような見解に立つことが信じられない。		10
2 そのような見解に立つ理由が述べられていなかった。		4
3 その他		0

## Q5 本日のリスクコミュニケーションの進め方についてお尋ねします。

### 1)良かったと思う点

#### 【消費者】

国がこのようなミーティングをしていることがすばらしいと思う。しかし平日に1回のみではダメ  
食品に関するリスクコミュニケーションは情報として説明が聴くことができてよかった。  
行政側の意見、考え方を知ったことは良かった。  
各専門部から情報提供があり勉強になりました。  
行政内の説明が聞けたが、他への説明がどうされているのかもっとくわしく聞きたかったが、一応は評価できると思う。  
時間配分がとてもよかった。内容充実がよくはかられていました。  
スライド画面と同じ資料が手元にあるので、理解することができた。

#### 【製造・加工業】

パネルディスカッション  
消費者、行政、企業それぞれの立場での見解が聞けて良かったです。  
パネルディスカッションに関してフロアからの意見を・質問を全て受け入れたこと。消費者団体の生の声をきくことができた。  
時間通りに進められた。  
少しでも添加物の必要性を伝える場になったこと  
質問が片寄っている。(アスパルテーム)

#### 【流通・販売業】

同じ人の発言について制限されたのは良かった。意見を聴くことがリスクミであり、納得することではない。  
安全食品連絡会の方々の熱心さが伝わり、逆にここまで学習されている消費者もおられることがわかり、しかし少し悪い方へ悪い方へ考える点もあり、安全性の普及の難しさを感じました。

#### 【行政関係】

1人の持ち時間が少ないので、簡潔にまとめられていた。  
発言者の時間が決まっていたこと  
いろんな立場の方の意見がきけた  
専門家でない人にもとてもわかりやすかったと思う。  
テーマの説明があり、パネルディスカッションを行ったこと  
冷静なコーディネーターと西島先生  
事業者の方から参考意見があったこと  
都市部の消費者レベルの高さがわかった。

#### 【その他】

特定の団体の人の発言がめだつたが、中林さんの調整はよかった。  
直接国の意見、考え方が聴けて良かったです。  
色々な立場の方から意見が聴けた点  
パネリストの意見・説明が分かりやすかった。  
司会進行がよかった。西島さん他明快な回答ありがとうございました。

### 2)改善すべきと思う点

#### 【消費者】

検疫所の人数は増員されたそうであるが、輸入増からいうとまだまだ少ないと思う。  
それぞれの部の構成が理解できただけ。反対論者を抗議する会だとわかったこと。  
時間的に多すぎる。テーマを一つずつ消費者の疑問を聞くべき。内容説明のみでコミュニケーションとは言えない。  
発言者の制限をしないで自由に発言させる方がよいと思う。  
情報を出すことと受けることをもっと広くしっかりしてほしい。

#### 【製造・加工業】

質問する方が偏っているし、質問の傾向も偏っている。主催側の責任であるとは思いますが、やり方は検討した方がよいのではと思います。  
各演者がはしよりすぎ。テーマが多すぎる。  
パネラーに流通やメーカーも参加させるべき。  
パネルディスカッションにおいてコーディネーターの対応が悪い。  
貴重な時間がアスパルテームに費やされたのが残念。同じキーワードの質問は受け付けないようにすべきです。  
フロアからの質問の仕方、いずれのリスクミに於いても1人1問のルールが徹底されていない。質問者のマナーをなんとかしてもらえないか。不快だ。  
時間が短い

スライド上映時は照明は消さないで欲しい

幼子に大学の先生、厚労省の回答は難しすぎる。学校教育から見直さないといけない。農水さんの食育のテーマにも添加物の必要性も入れられたらいいか。これでは安全食品連絡会の方々はさらに不信感を持ってしまふかもしれないので、後日フォローされることをおすすめします。しかしこのリスクミは小さな努力であるが、さらに消費者の教育をもっと力を入れてやらなくてはと思いました。このままでは日本人の考え方がゆがんだままになってしまふ。

#### 【流通・販売業】

大きく3つのテーマがあったが、時間的にタイトであった、もう少し余裕があり講演時間をもう少しとっていただきたかった。  
テーマが多く、ひとつひとつのテーマについてもう少し詳細をお聞きしたかった。特に西島先生のお話は添加物の持つ現在の課題について言及されていたので、もっとお話を聞いてみたかった。  
論点を明確にして欲しい  
挙手発言ではなく、申意発言も活用してはどうか。  
各テーマの説明時間が少し短かった。  
テーマは2つくらいでよいと思います。

#### 【行政関係】

講師の方が多く1人1人の時間が短かった。もう少し講師を絞ってすすめて欲しい

フロアからの質問がかなりかたよっているように思われ、そういう内容は終了後個別に話した方がよいのでは？

論点のずれている質問ははずしてほしい。

特定団体に片寄って発言をさせた。BSE対策はわかりにくかった。

テーマの説明は一般の方にはまず十分理解できないだろうと思います。一般用にはスライドも簡単なものにされたほうがいい部分もあるのではと思いました。

#### 【その他】

テーマについての説明の時間が短い

少し時間が足りなかった。

特定の人が多く質問していたがあらためてほしい。その人達が2~3つも質問を独占したことが気になりました。

### Q6 その他、今回のリスクコミュニケーションについて、お気づきの点がありましたら記入願います。

#### 【消費者】

輸入食品の検疫所(税関も含む)の調査官の人数が90人と聞いていた頃から増員の要望をしてきたが、本日の話で増員されてきていることがきけてよかった。事前にきいた質問の回答集も欲しい。

現代は事業者のモラルなど消費者としては信用できない。行政は事業者の視点なのか、消費者サイドなのか明確にしてほしい。

スーパーの漬物屋さんの話「添加物が入ってないからおいしいよ」は当たり前です。色づけ漬物味付け漬物入り。余分なものを加えないで野菜を漬けた漬物はおいしいんです。ちょっと疑問を感じました。

ADIを超えない使用基準なので安全とはいえないと思う。やはり相乗作用には不安を持っている。原産国表示を加工食品にもして欲しい。

地産地消で流通を短く使わなくてもよい添加物はなるべく避けるべき。添加物は安全に使用され使う方がおいしいと、たとえば漬け物には使わなくてもおいしいものが作れるのに添加物を使う方がおいしくできると添加物メーカーの人は云われた。メーカーの人はそんな認識でおられるのか驚いた。

質問が入場者のわりには少なかった。参加要請があつての参加か？

↑(※事務局より)消費者団体等へ参加の呼びかけはしていますが、要請等は今回に限らずどの意見交換会でも行っていません。リスコムは儀式や式典ではないので、人数が多ければいいというのではなく、実質的な情報共有や相互理解に目標を置いてますので、参加者を無理に集める必要はまったくありません。少なれば少ないほうがむしろ気軽な雰囲気できつぱらんに発言が出て議論を深めることもでき、それはそれで有意義だというぐらいのスタンスで開催しています。

私たち日常生活に於いて食品を毎日食べています。本当なら添加物の入らない食品を選びたい。入れて欲しくないと思うのが心情です。

食品添加物については消費者の学習が急務と思われまます。輸入食品については適正なチェック体制の充実を要望します。終了時間は守ってください。

このような会を開いていただき、たのしく思う一方、食品の安全を守ってもらえない事件に対して非常に不安になります。ことがおこってからではどうにもなりませんので、よろしく願います。

#### 【製造・加工業】

まだまだ、消費者と製造者の溝は深いと思いました。

特定の商品をあげての質問は回答すべきではないのでは？(メーカーの方ならいいのですが)質問する側にも問題。アスパルテームに対して事前に質問はあつてなかったのでしょうか。会議中でなく後日回答してほしい。

回数を増やし全国で実施すべし。国民のレベルを高めておかないと今後の遺伝子操作などの有益な技術の成果について理解されない。

論点を予め具体的にしたほうがベターと思う。

1つのテーマで絞り込んだ方がいいのではないか。

食品添加物説明:内容が浅すぎる。時間が短すぎる。単なる項目の羅列で書類インターネットで調べられる。これではわざわざ来た意味がない。第1問に対する西島氏の発言:あのような独善的な回答では質問者を納得させることはできない。

不二家の一件。コンプライアンス、遵守、指導

どのリスクコミュニケーションでも出ることでありますが、消費者は情報入手ができないわからないということばかり聞こえてきます。消費者にどのように話をしたらよいのか各消費者団体や今日のパネラーの消費者専門相談員の方々は分析する必要があるのでは。今日の本場の消費者は居なかったと思います。

#### 【流通・販売業】

消費者団体の方は別途このような質問会をもたれたらどうでしょうか。あまりにも考えがよかつた発言が多いように思います。正しい知識をもってほしい。

不安情報の煽りに対して言論の自由を確保した上で規制といわずとも指針を示せないものか。消費者団体のように不安情報を感化された方々が多いと健全なリスクコミュニケーションの土台に立てないのではないか。

リスクコミュニケーションとしてはテーマが多すぎるように思いましたが、輸入食品の監視指導計画など学ぶところも多かったです。

添加物:一般の人との溝は深いと思った。添加物協会などのHPで、添加物を入力したらそれが安全であるデータがぱっと出るようなシステムはつくれないかと思いました。

世の中にはあたかも売名行為のような本が出されたり、不二家の報道に見られるような食の安全を度外視したとらえかたについては、行政が科学的視点に基づいて必ず報告すべきだと思います。定例会見のような方式で、本当の問題点と現状について国民に知らせるような活動をお願いします。

アスパルテームの問題のように片寄った考えを持つ消費者団体の存在が「添加物=悪」のような考えが広がり、また、流通業界に対して販売中止を求める動きをされるのが「無添加」表示へともつながると思います。企業にも問題はありますが、そのような消費者団体の動きに対しても対処していただきたいと思っています。

今回の内容について、ホームページ等見るものは見るが、国民に対しての安全性の知識普及においてはやはりTV媒体が一番であると考えます。ビジュアルと音声(説明)により国民に普及できる番組がもっとあつてもよいのでは。

インターネットではどうしても興味あるものしか見ない。逆にマニア的な普及と思う。インターネットではQ&A方式での普及に重きを置いては?情報をビジュアル・音声で分かりやすく、国全体の手法、地方自治の手法、企業から消費者への手法。どう伝えるかと感じました。

#### 【行政関係】

消費者の不安、不信任について、行政だけでなく消費者・業者の取組が必要と感じました。

食品添加物に対する意識は若干わかつたが、だからといって今後も入っているものを避けようという気持ちはかわらないと思う。許容量を超えて摂取すると危険性のあるものはたとえ少量であってもとりたくないという心理は簡単には払拭できない。

自給率が下がっていることが一番の問題だと思います。

BSEについて、米国でのBSE対策で肉骨粉の取り扱いについて説明して欲しかった。米国では肉骨粉は禁止されているときいているが、それを中国、東南アジアには輸出していると。その肉が日本に輸入されているのではないのでしょうか。

西島先生の話をもっと少し長くききたかったです。

特定の人々の質問が片寄っていたように思う

BSEについては言ってることがよくわからなかった。